

# らじみさらダボール子育て情報



「発達を理解」

令和5年5月31日号

板橋富士見幼稚園



## 能力を高める育て

幼児期は、どの子も同じ発達過程をたどりながら発育していきますが、発達には大きな個人差が見られます。一見同じに成長していくように見えますが、個々にばらつきがあり、男児と女児では、女児の方が成長が3ヶ月程度早いと言われていています。

育ちの差について見かけ上の育ちを振り返って見ましょう。同じ月に生まれても、半年経つ頃には母乳やミルクを飲む量や栄養の吸収率も異なってきます。「うちの子は結構飲む割に太らないわ。」「うちの子そんなに飲まないのに、太っているの」などと、比べたことはありませんか。また言葉の獲得も、満一歳を過ぎると次第に増えてきます。一語文・二語文そして、三語文から助詞を使って、自分の意思を伝えようと話し言葉へと変化していきます。

言葉の発達過程からは、知的な育ちを読み解くことができます。実は言葉は、想像力が無ければ頭の中で組み立てることが出来ない道具です。そして言葉を豊かに育むためには、多様な経験や体験がとても重要な鍵となります。この鍵を刺激することができるのは「好奇心」です。好奇心は、五感に刺激を与え、イメージを創り、言葉を生み出すのです。したがって、日々いろいろな環境に触れさせてあげて、好奇心を引き出していくことがとても重要になります。

しかし、その環境は何でも良いということではありません。1歳を過ぎた頃からは、特に自然環境の中で遊びを楽しませてあげてほしいと思います。なぜなら自然は、人間にとって起源であり心の拠り所だからです。ケバケバしさが無い落ち着いた自然環境は、子どもの想像力をじっくりと育ててくれます。



四季の移ろいや身近な自然に目を向けてあげることで、興味関心が広がり、イメージが大きく膨らんで、探究心が芽生えていきます。この探究心こそ、知的な育みなのです。是非、お子さんを自然の中で育ててみてください。言葉の獲得が加速していきます。



【写真：いちごの収穫祭…年長さんがジュースを作り、お店を開いてくれました！

あまずっばくておいしいジュースに大満足の表情です】